

# ヤマハ グリップヒーター 取扱・取付説明書

90793-66645

TYPE  
スポーツ  
(130mm全周タイプ)

- ◎取り扱い、取り付け前に必ずお読みください。
- ◎販売店様へ  
この取扱・取付説明書は、必ずお客様にお渡しください。
- ◎お客様へ  
この取扱・取付説明書は、必ず保管してください。

この商品の取り付けには、モーターサイクルに関する整備上の一般的な知識および電気に関する知識、一般工具が必要です。  
販売店での取り付けをおすすめします。

## 安全に関する表示

### ● 安全に関する表示

「運転者や他の者が傷害を受ける可能性があること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

### ▲警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの。

### ▲注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの。

### ● その他の表示

**アドバイス** お車と用品のため  
に守っていただきたいこと。

## 取扱について

### ▲警告

- 走行中にグリップヒータースイッチの操作は行わないでください。
  - 走行中にスイッチの操作をしますと、操縦が困難になり転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

### ▲注意

- 使用するとき、手袋を着用してください。
  - 素手で使用すると火傷などの傷害を受ける可能性が高くなります。
- グリップヒーターの表皮ラバーが摩耗したり、破れたりした場合は使用を中止し、新しいグリップヒーター表皮と交換してください。
  - 使用し続けると火傷や感電などの傷害を受ける可能性が高くなります。


- スイッチはOFF,LO→HIです。LO→HI間は無段階調整になっていますので、気温感温に合わせ使いわけてください。
- このグリップヒーターはバッテリーからのDC（直流電源）回路と接続しています。スイッチにはバッテリー上がり防止のための電圧検出による自動スイッチが組み込まれています。そのために一時停止および徐行運転などのバッテリーの電圧容量が低下した場合は、自動的にスイッチが切れることがあります。再走行後にバッテリーの電圧が上がればスイッチは自動的に入ります。
- ヒーターの温度は、外気温に比例します。暖かい日（気温20℃以上）でのHIレベルの使用は避けてください。
- ノロノロ運転では、バッテリーの状態によりONに入れても自動スイッチが入らないことがあります。
- このグリップヒーターのヒューズを交換する時は、5Aのヒューズと交換してください。それ以外のヒューズは使用しないでください。
- バッテリーは消耗品です。バッテリーが寿命の場合は、グリップヒーターが作動しなくなりますので点検の上、交換してください。

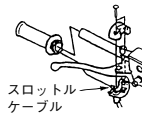
キ  
リ  
ト  
リ  
線

## 取付について

- 車両のパーツの締付けトルクは車両のサービスマニュアルを参照してください。

### ▲警告

- 各スクルー、ボルト、ナットは確実に締め付けてください。
  - 締め付けが不確実な場合、走行中に脱落し自分または後続車の乗員や走行車を死亡または重大な傷害に至らしめる可能性が高くなります。
- スロットルケーブルを右側グリップから外すとき、プライヤーなどで無理に外さないでください。
  - ケーブルが折れ曲がり、スロットルの戻り不良が原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。
- 左右グリップヒーターをハンドルやインナグリップへの装着を確実にするため必ず指定の接着剤（ボンドA）を使用し、1時間以上乾燥させてください。
  - 指定外の接着剤を使用したり十分な乾燥時間をとらなかつたりすると走行中にグリップヒーターが外れることが原因で転倒事故を起こし、死亡事故または、重大な傷害に至る可能性が高くなります。
- ハーネスを取り回す時や電源を取る場合は、ハンドル可動部内で行ってください。
  - 図の  部以外から電源を取ったり、ハーネスを取り回したりすると断線などの原因になり、走行中に火災などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。



- 取り付けは、お買い求め販売店にご相談ください。
- 取り付けは、必ずエンジンを停止させメインスイッチをOFFにした状態で行ってください。
- 外装などの再取付時、配線類のかみ込みがないことを確認してください。
- 取付完了後、灯火器（左右のフラッシャー、前後のブレーキランプ）の作動確認およびスロットルグリップの引っかかりが無いことを確認してください。

## 必要工具

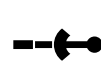
- \* 車両のパーツの締付けトルク、および分解・組立作業は車両のサービスマニュアルを参照してください。
- \* 他の必要工具については車両のサービスマニュアルを参照してください。



● ウェス



● 脱脂洗淨剤



● トルクレンチ



● サービスマニュアル



● ポケットテスター



● ビニールテープ

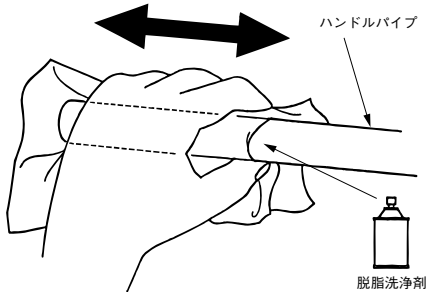
- 14mm スパナ
- 17mm スパナ
- ④ ドライバー
- カッターナイフ
- ターミナルキット
- ハンダゴテ
- ハンダ
- マーカー
- 分度器
- スケール
- 金のこ
- ドリル(φ10キリ)
- 6角レンチ(6mm)
- リード線

# 取付方法

- 以下の手順はグリップヒーターを取り付けるためのおおよかな流れです。車両や加工の有無などによっては順位を変えた方がより良く取り付けられる場合もありますので、すべての項目を一度読み、各車両のサービスマニュアルを参考にしながら取り付けてください。

## 1 グリップヒーターの取り付け

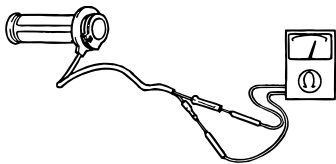
- 車両のグリップ（ゴム）をカッターナイフなどで切り取ります。
- ハンドルパイプ、スロットルチューブに付着したボンドを脱脂洗浄剤で落とします。



- ヒーター単体の点検  
取り付け前にヒーター単体の導通を点検します。

- 端子間で各グリップヒーターの抵抗値を測定します。

基準値 左側  $2.2 \Omega \pm 10\%$   
右側  $2.2 \Omega \pm 10\%$

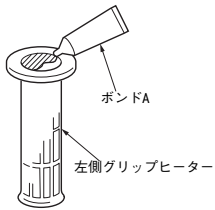


抵抗値が基準値以外のは取り付けを止め、パーツセンターまでご連絡ください。

### 左側ヒーターの取り付け

- ボンドAの塗布

左側はグリップヒーターの穴周辺にボンドAを内側の溝が埋まるまで多めにボンドを塗布します。



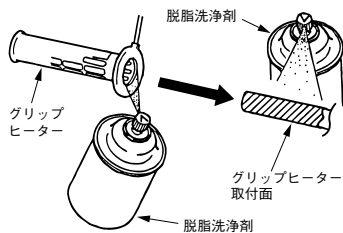
#### アドバイス

手順④～⑦は作業内容を一度読み全てを確認して接着剤が乾かないうちに一気に作業してください。また、車両が倒れないように補助を一人付けてください。（片側ずつ作業してください。）

#### 警告

グリップヒーターとハンドルパイプ及びスロットルチューブの接着を確実にを行うために必ず指定の接着剤（ボンドA）を使用し1時間以上乾燥させてください。  
●指定外の接着剤を使用したり、十分な乾燥時間を取らなかったりすると走行中にグリップヒーターが外れ転倒事故等を起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

- 脱脂洗浄剤をグリップヒーター内周面とグリップヒーター取付面にスプレーします。  
\*取付位置を合わせやすくするために行います。

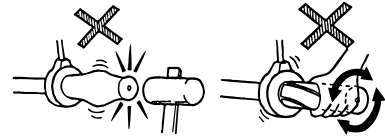


- グリップヒーターを下図の位置および角度に取り付けます。  
位置を合わせながら押し込みます。  
<左> 突き当たるまで押し込みます。



#### 注意

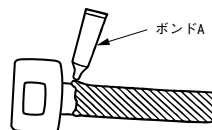
- グリップヒーターを挿入する際、「グリップエンドをハンマでたたく」「グリップを強くねじる」などは行わないでください。グリップヒーターが断線する恐れがあります。



- 万一、グリップヒーターが途中で入らなくなった場合は、グリップヒーターとステアリングハンドルパイプのすき間に脱脂洗浄剤を入れて取り外してください。この時、無理に配線ドライバなどでこじらないでください。グリップヒーター内で断線する恐れがあります。

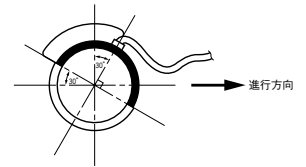
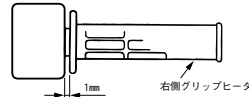
### 右側ヒーターの取り付け

- 右側はスロットルチューブにボンドAを塗布し、指で薄く伸ばします。

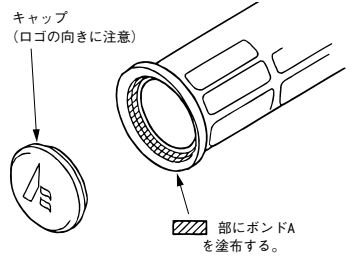


#### 警告

グリップヒーターとハンドルパイプ及びスロットルチューブの接着を確実にを行うために必ず指定の接着剤（ボンドA）を使用し1時間以上乾燥させてください。  
●指定外の接着剤を使用したり、十分な乾燥時間を取らなかったりすると走行中にグリップヒーターが外れ転倒事故等を起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。



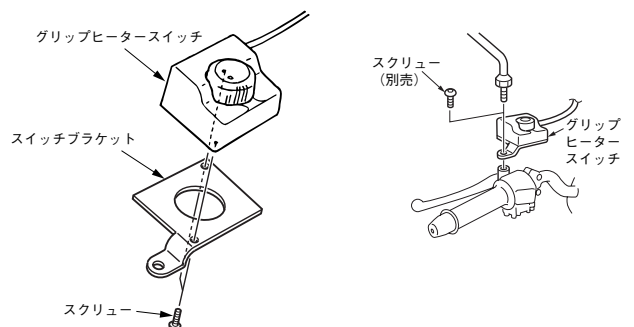
- グリップエンドの付いている車両はグリップエンドを取り付けます。それ以外はキャップを取り付けます。



- スロットルグリップがスムーズに回転するかを確認します。

## 2 ヒータースイッチの取り付け

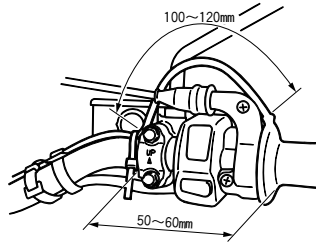
- 付属のスイッチブラケットを使用する場合、車両の左側ミラーを取り外し、ヒータースイッチと共締めします。後方確認ができる位置にセットして本締めをします。
- ミラーボスが有り、ミラーがカウリングに取り付けられている車両は別売りの  $M10 \times 16$  mm ボルト (92017-10016) でスイッチブラケットを固定します。



### 3 ハーネスの取り回し

#### ① 右側グリップヒーター

右側グリップヒーターハーネスを取り回すときは、下図の寸法で行なってください。

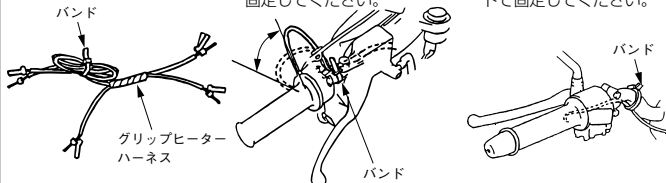


#### ▲注意

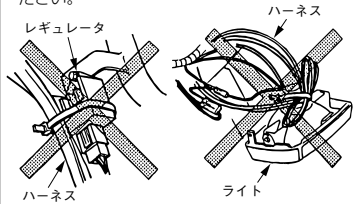
- スロットケーブルに引っ張りがなく自由に回る位置に配索してください。
- 各ハンドルスイッチ、ブレーキレバーの操作に支障がないように配索してください。

#### アドバイス

- グリップヒーターハーネスは結線後ある程度必要な長さにバンドで束ねてください。
- 右側グリップヒーターハーネスは、ハンドルカバー内に取り回した後にアクセルを全開にしても、引っ張りなどが無いようにバンドで固定してください。
- 左側グリップヒーターハーネス、スイッチハーネスはハンドルカバー内に取り回した後に外に出る部分にたるみなどが無いようにバンドで固定してください。



- ハーネスが外装内で動かないように車両に固定します。この時に発熱する可能性のある部分（レギュレータ、ランプ）には固定しないでください。



#### ▲警告



ハーネスを取り回す時や電源を取る時は、ハンドル可動部内で行ってください。  
● 図のハatched部以外から電源を取ったり、ハーネスを取り回したりすると断線などの原因になり走行中に火災などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

### 4 車体側との接続

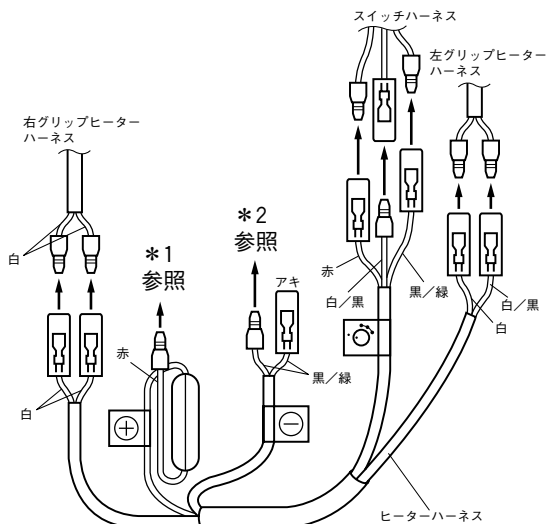
① 必要に応じてヘッドライト、カウリングなどを取り外します。

#### ▲注意

配線接続時は、バッテリー⊖端子を取り外してから行ってください。

② 下図のように各ハーネスを接続します。

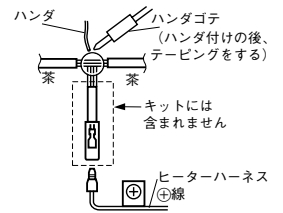
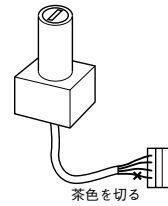
- 車体側との接続は実車に合わせて加工してください。
- 各ハーネスは車両のハンドルスイッチの配線に沿わせてください。



### \* 1 ⊕電源の接続

メインスイッチの⊕（茶色）リード線を下図のように加工して、メスギボシを取り付けます。

- 配線は、0.5以上のサイズを使用してください。
- 配線長は、実車に合わせて設定してください。
- 配線およびギボシ端子は、キットに含まれません。別途ご準備ください。

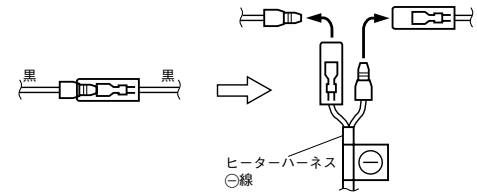


### \* 2 ⊖アースの接続

① 下記②③いずれかの方法で結線します。

② 既存のアース線（黒色）にギボシ端子結線がある場合。

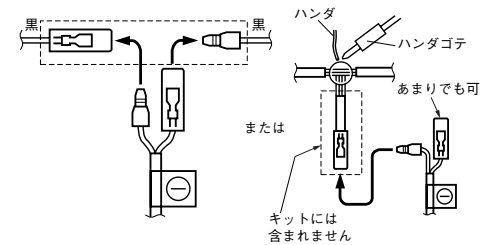
ヒーターハーネスのオス、メスギボシを割り込み結線します。



③ 既存のアース線（黒色）はあるがギボシ端子接続部がない場合。

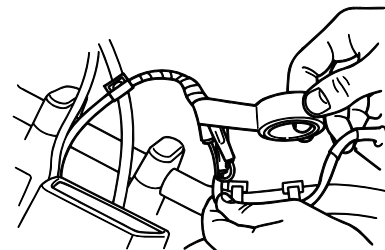
アース線を下図のように加工してギボシ端子を取り付けます。

- 配線は、0.5以上のサイズを使用してください。
- 配線およびギボシ端子は、キットに含まれません。別途ご準備ください。



② 接続部のテーピングをします。

防水のためビニールテープでテーピングをします。



③ 取り外したヘッドライト、カウリングなどを組み付けます。

ヘッドライトボディ内のスペースが狭い場合は、ハーネスを外周方向に振り分けてヘッドライトを取り付けてください。

